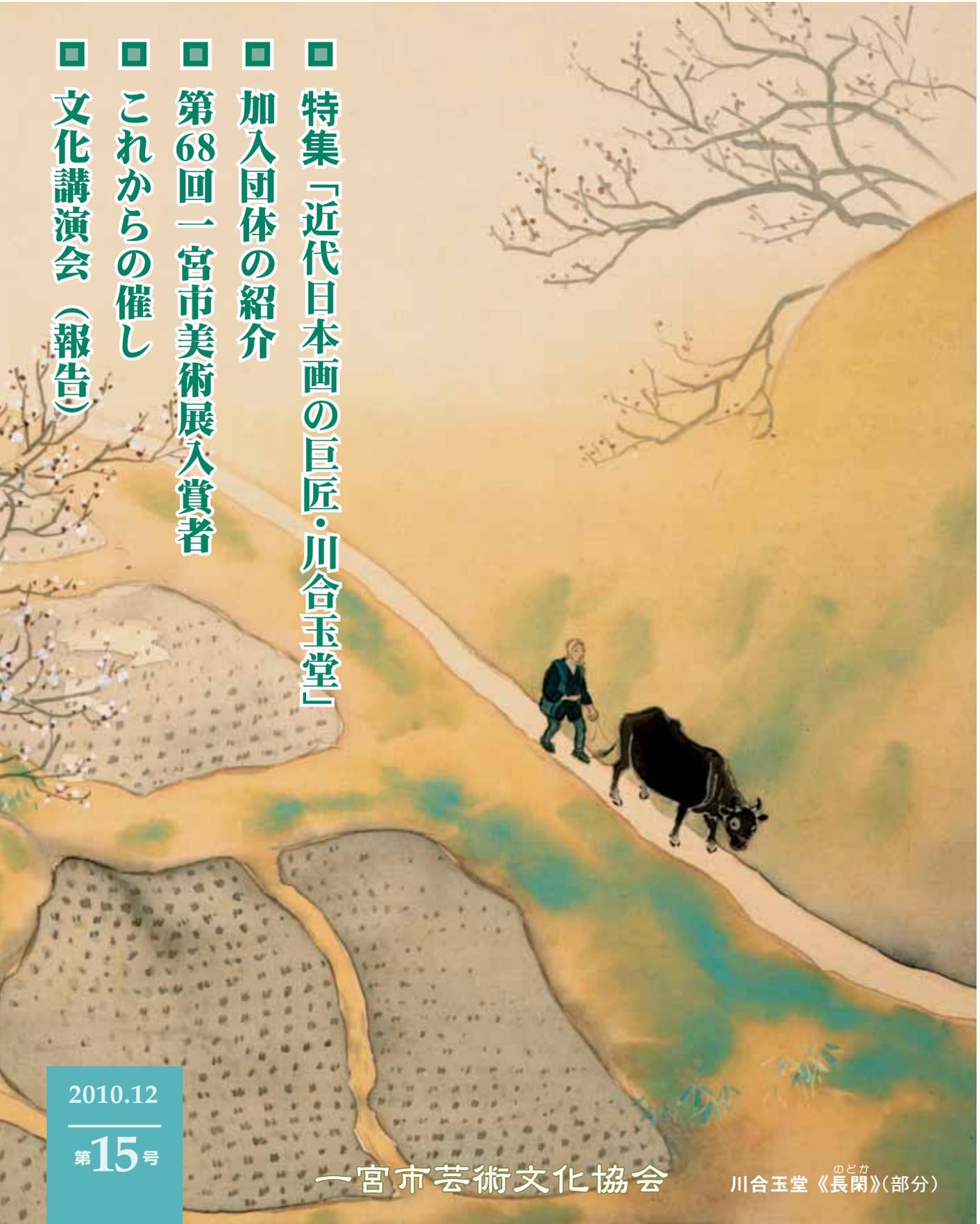


いちのみやの芸術文化

- 特集「近代日本画の巨匠・川合玉堂」
- 加入団体の紹介
- 第68回一宮市美術展入賞者
- これからの催し
- 文化講演会（報告）



2010.12

第15号

一宮市芸術文化協会

川合玉堂 のどか 《長閑》(部分)

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

近代日本画の巨匠

川合玉堂

・生い立ち・

横山大観・竹内栖鳳と並び近代日本画の巨匠と称される川合玉堂、本名芳三郎は1873年(明治6)に父勘七48歳、母かな30歳の一粒種として葉栗郡外割田村(現一宮市木曾川町)に生を受けました。両親は、父が江戸時代に尾張藩重臣竹腰家に仕えた川合家の分家で茶・俳句を好む趣味人、母の父は尾張藩校明倫堂の教授を勤めていたという文雅を愛する夫婦で、芳三郎の教育や将来への配慮から、8歳の時に一家で岐阜へ転居し筆墨商を始めました。岐阜では小学校に通うかたわら誓願寺住職雄山瑞倫について漢籍や俳句、短歌などを学び、和尚とはこの後も親交を結んで生涯心の師と仰ぎました。

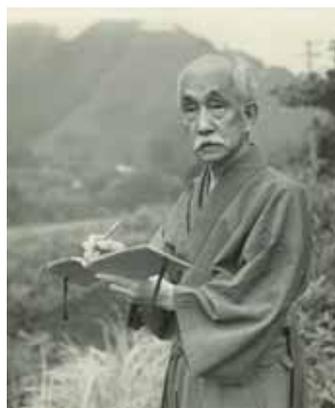
ぎました。



《跳鯉》1915年

この作品は、玉堂が没した翌年の昭和33年に生誕地・木曾川町護国神社建立を記念してご遺族から寄贈された。急流に跳ね登る鯉の図は、古来より誕生祝いや何か新たに始める時に、その記念として描かれる吉祥の画題である。

1963年(昭和38)
川合玉堂七回忌の折に岐阜と名古屋の美術商有志の人達を中心となって建立された生誕地碑、この敷地に2001年(平成13)玉堂記念木曾川図書館が建設された。



昭和31年御岳にて(83歳)
玉堂美術館提供

・習学時代・

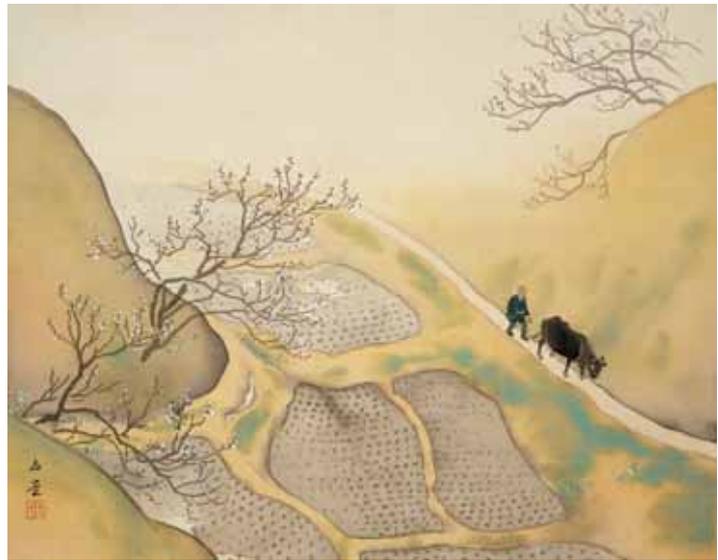
ある日たまたま岐阜に滞在していた京都の書家青木泉橋とその妻で美人画家の翠蘋の知遇を得て、高等小学校卒業後、その紹介状をもって京都の望月玉泉に入門、「玉舟」の号をもらいます。通いであればという両親の意向で、それから年に4、5回京都に行き、粉本の模写と運筆の稽古に励みました。1890年、第3回内国勸業博覧会へ出品するにあたり玉泉の玉と外祖父佐枝竹堂の堂をとって「玉堂」と改め、作品は見事に入選し初めて褒状を受けます。これを機に、父の許しを得て本格的に画家になることを決め、師玉泉の紹介で幸野楳嶺に師事しますが、翌年10月28日、濃尾大地震により父が避難先の建物の倒壊で不慮の死を遂げ、玉堂は家財を整理し母とともに京都市油小路(現中京区)に住むこととなります。1895年第4回内国勸業博覧会で《鶉飼》が三等銅牌を受賞。この会場で観た東京・橋本雅邦の作品に感銘を受けた玉堂は、翌年雅邦に入門を乞い、妻と1歳に満たない長男を連れて京都を離れます。3年前に母が、前年2月には師・楳嶺が亡くなり、哀悼のうちの旅立ちでした。

：新たな出発として奥多摩の自然：

東京に出た玉堂は精力的に作品を発表、数々の賞を受けます。円山四条派と狩野派などの古典画法を融和させた独自の画風はたちまち名声を博し、文部省美術展覧会など多くの展覧会審査員、東京美術学校教授、帝国美術院会員などを歴任し、1940年（昭和15）には文化勲章を受章します。しかし疎開中の1945年、東京大空襲により



《鶯飼》 1954年



《長閑》 1940年頃

牛込区若宮町（現新宿区）の自宅を焼失、玉堂はこれをひどく悲しみましたが、一切足を運ぶことなく、それから疎開先の奥多摩三田村御岳の医師に貸してもらった家を「偶庵」と名付け、気持ちの趣くままに絵画や和歌の制作に没頭しました。ここでの生活は、自然をこよなく愛した玉堂にとって充実の日々であり、写生のため野山を歩き、村人と語らうことはこの上ない喜びでした。1957年6月30日満83歳の生涯を終えたとき、日本画家鏑木清方は「日本の



《五月雨》 1949年頃

山河がなくなったような気がする」と語っています。1961年終焉の地、御岳溪谷に皇后陛下（香淳皇后）をはじめ全国の玉堂を敬愛する人たちの寄付により玉堂美術館が開館しました。自然が私たちの周りからどんどん失われつつある現在、自然と人間との共生を描いた玉堂の美しい日本の風景は、観る人の郷愁を誘い、今もなお多くの人々に愛されています。

（一宮市三岸節子記念美術館 毛受英彦）

“描く楽しみを見つけたグループ尾彩”

今、特に中高年層で水彩画に対する関心は高く、隆盛を極めています。コンパクトな水彩画セットとカメラをバッグに入れ、気に入った風景があればスケッチをしたり写真を撮ったりと、気軽に楽しめるところが魅力の1つでもあります。

水彩画は誰でも取りかかりやすく、短時間で手軽に楽しめ、作画に集中することで日常のストレスから開放されるという癒しの効果もあるとされています。

私たちの普通の教室では、講師の適切でわかりやすい指導によって楽しく学ぶことができ、様々な水彩の技法を身につけることができます。また、作者の制作意欲が存分に伝わる作品を描くことをモットーに、明るく楽しく絵に取り組み、美しい自然との出会いに感謝する“和の心”をもって一歩一歩、歩んでいます。

何歳になっても美意識、好奇心に眼を輝かせ、多士済々の仲間との出会いを大切に明るく楽しく熱気あふれる会にと思っております。普段は、毎月第1、3土曜日の午前10時から尾西生涯学習センターの5階で教室を行っております。年3回の作品発表会、スケッチ旅行、会食等々も一緒に楽しんでみませんか。お気軽にご連絡下さい。



佐藤興屋講師と尾彩の仲間

【問合せ先】居倉 勉 ☎69-0430

昭和35年4月に、能楽に親しむ人たちが謡曲という一つの嗜みを人生の志とし、自身の品性を磨き高める事を意識目標として、謡曲クラブいづみ会が誕生しました。以来、先人よりその誠心と親睦を今に引継ぎながら、稽古に励み、健康の保持や増進にも役立っています。

現在は、毎週土曜日の午後1時30分から5時まで、奥公民館2階の日本間で稽古をしています。

いづみ会では、本田勲先生を講師に迎え、大変熱心に指導していただいています。そのおかげで、謡曲の奥深さや素晴らしさに改めて気付き、稽古にもより力が入ります。

活動としては、一宮謡曲同好会での年2回(春・秋)の発表会、一宮市内の公民館祭りや年2回行われる講師の方たちの発表会にも参加しています。

発表会では、他のクラブの発表を見るだけでなく、話し合いをすることによって交流を深めな

がら、切磋琢磨することに努めています。

最後に、謡曲は謡本を大きな声で読み、謡うことによってストレスを解消し、健康が維持できると思います。また、年老いてからも楽しめ、何より和室で稽古をすることによって心も落ち着きます。

皆が楽しみながら稽古をしている様子をぜひ一度ご覧ください。

会員一同お待ちしております。



本田先生を囲んで

【問合せ先】林 澄子 ☎62-1347

松風会は現在、毎週水曜日の午後5時から活動しています。

毎年、秋には他の教室の方たちと合同で、尾西華道展・お茶会を尾西市民会館にて開催しています。このお茶会には、普段あまりお茶とは関わりが無いような方々も大勢来ていただけるので、とても嬉しく思っています。

現在、「お茶」と言うと特別なものに考えられ、堅苦しく思われて敬遠されがちですが、私が小さかった頃にはお客様が家にみえると、縁側で手軽にお抹茶を点てて飲んでいました。家の中でも日々の生活の中で、気軽にお抹茶が飲まれていたと思います。そんな昔のことを思うと、「お茶」のイメージが少し変わりつつあるように思います。更には「お茶」を楽しむ余裕が無いぐらい普通の時間の流れが速くなったようにも思えます。

そんな時代だからこそ少しでも多くの方に抹茶

茶を味わっていただきたいと思います。ごつごつした大きなお茶碗を、両手で包むように持ってお抹茶を飲むと、掌からもお茶の温もりが伝わり、心も丸く温かくなります。

「お茶は難しいものじゃないよ。心を柔らかく、ま〜るくするものだよ。」少しでも多くの方に、そう思ってもらえるよう日々楽しみながらお稽古をしています。



◀ 稽古風景

【問合せ先】平松 正子 ☎82-2183

本町俳句会の歴史は古く、五十数年を数えると言われ、指導者の他界による代替りを重ねながらも今に続いています。

現在は、毎週金曜日午後1時より、大志公民館において句を持ち寄り勉強会を開いています。

また、年2回、春と秋には吟行会に出かけます。普段とは違った場所へ行くことにより、いつもと違った俳句が生まれる面白さを感じています。

他にも、一宮七夕まつりや一宮芸術祭の俳句大会に参加し、毎年発行されている文芸誌にも投稿しています。

日本には、美しい四季があります。移り変わりゆく自然と語りあい、自然の中に身を置いて静かに息を整え、自然と自分が一体になった時俳句が生まれます。このように、俳句を始めて自然と向かい合うようになり、人生が豊かになったと思う人も少なくありません。

世界で一番短い十七音の詩に、自然の移ろいや自分の心を詠んでみませんか。

本町俳句会は何時でも自分の思いを述べることで、良き指導者と良き仲間恵まれ、和気あいあいと楽しく勉強しています。

是非、お気軽にお出掛け下さい。



◀ 吟行会のお宿にて

【問合せ先】岩田 満佐 ☎77-3005

第68回一宮市美術展



会場風景

11月11日(木)から14日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第68回一宮市美術展」が開催されました。

市内や近隣市町村を中心に、県外からも多数作品が寄せられ、出品者は568名で、審査の結果、入賞となった175点をはじめ、564作品が展示されました。期間中は、約5,600人の方

が会場を訪れ、作者の熱意・エネルギーを感じさせる多数の作品を熱心に鑑賞されていました。各部門で入賞された方は、次のとおりです。なお、同一賞内での掲載順は順不同です。(敬称略)

日本画

審査員 鈴木喜家

大島奈知子

市長賞

水谷喜久子

教育委員会賞

藤塚章



日本画部門解説

美術展賞

富永美千代 甲賀春美
星野真由 三矢菜穂子

奨励賞

湯浅真奈美 川瀬貢一
森 恵 宇都木千恵子
瀧 廣美

入選 35点

洋画

審査員

斎藤吾朗
山田 彊一
岩田哲夫
後藤泰洋
浅井欣哉
三輪清弘

市長賞

新野友子 内藤圭介
近藤博通

教育委員会賞

藤井忍 金田道子
田中邦子 森 たみよ

美術展賞

木村周子 酒井美江
竹内妙子 小倉義夫
森 健次 木村隆行
尾関秋隆 小澤富美子
富岡 治 桶川千秋
渡辺啓子 杉浦真二

岡田優子

井上美恵子 瀧 照子
榎谷咲子 田仲富美子
江崎武夫 丹慶哲宏
梅田恵子 五藤寿子
平野 肇

奨励賞

村橋寛悦 石黒三雄
加納静子 小倉照江
佐藤幸子 山崎正春
戸松佐代子 成瀬弘子
浅野奈津子 祖父江和子
加藤俱子 加藤昌子
大島裕子 荒深てるみ
平松芳江 浅野亜諭峰
梶浦文雄 合田寛子
高田国光 鈴木由雄
山田光代 河野緑子
馬場越子 日野絹枝
水野 潔 森部みや子

入選 181点

彫刻・立体

審査員

森 克彦
櫻井 真理

市長賞

伊藤 毅

教育委員会賞

宮田耕作

美術展賞

川上堯由 徳山了太

奨励賞

才藤亥直 森孝行

入選 22点

白井秀樹

工芸

審査員

加藤陽児 鵜飼辰郎

市長賞

下田心一

教育委員会賞

山田信久

美術展賞

中西正美 大柳良吉

伊藤晴康 田中彰子

山田早苗

奨励賞

倉田芳美 加藤陽子

夫馬信行 石田正彦

加藤伸 小河敦子

入選 44点

デザイン

審査員

源安孝 森昭夫

市長賞

南谷恵美子

教育委員会賞

三輪双葉

美術展賞

加藤理沙

奨励賞

水谷琢三

入選 11点

書

審査員

平松紫雲 安藤滴水

亀山雪峰 木戸竹葉

林大樹 岩田澗流

小原紫明 村田光柁

市長賞

吉田翠亭 長澤美峰

教育委員会賞

中村彩香

尾中杉得 小松月泉

長崎成秀 鈴木鶴扇

岸田松峰

美術展賞

深谷秋月 川口千代子

倉橋祐華 篠田松慶

高取翠揚

西垣梨雪

富貴原寿風

林華静

辻映翠

酒井淑婉

山田順子

近藤由果

野田智子

吉田禎常

加藤瑞頭

奨励賞

戸本有荷

古川白萩

安田彩霞

谷本義仙

足立千枝美

伊藤恵里

長屋容子

井上瑤香

牧上恵清

岩田波鮮

真野藤麗

大橋溪煙

五藤梅艶

石井玉華

入選 196点

木村珠翠

森環翠

小椋竹園

脇田玉波

春日井美来里

戸谷嘉恵

井内溪舟

小島華扇

西村松花

片桐瑤雪

内出紅華

山路静竹

小島忠峰

板垣祥華

五十嵐游燕

鶴飼梨英

山本瑤華

佐藤りさ

岩田佳川

浅井妍翠

山田紅照

竹内深風

神田鴻都

審査員

蜂須賀秀紀 青山昌弘

夫馬勲

光田せいすけ

市長賞

三野彰

教育委員会賞

千田陞末

美術展賞

宮崎久仁子

長谷川隆光

中辻義則

桜井悦子

安藤雅彦

奨励賞

江川宏

寺澤英治

長谷川薫江

原紹郎

安藤正一

浅野英次郎

入選 75点

青木尚子

田端勉

小原勇二

田島孝子

高崎英美

古舘正芳

橋本秀子

中村薫

佐野ルミ子

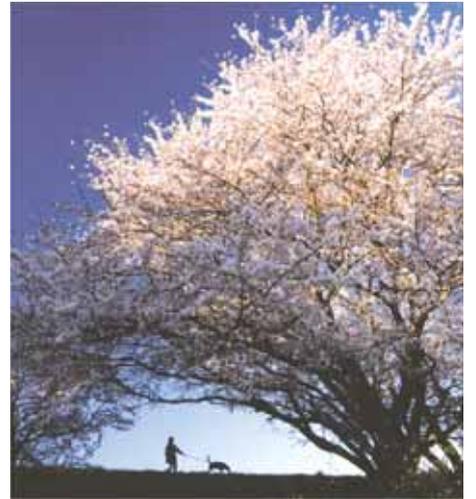
相川修

渡部明



写真部門解説

文化情報



「桜ロード」

水野雅央

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館

〒463215

企画展「くらしの道具〜今と昔」

日時 1月8日(土)〜3月13日(日)

午前9時30分〜午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、月曜日が休日の

場合は翌日休館、以下同し)

内容 市域をはじめ、尾張地方で

使われていた衣・食・住に

関する民俗資料を中心に展

示します。

観覧料 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

※市内小中生・65歳以上無料(以下同し)

「尾張平野を語る15」

日時 2月27日(日)・3月6日(日)・

3月13日(日)

午後1時30分〜3時

内容 古代から近代の織物やその

生産について、3人の講師

からお話を聞きます。

申込み 定員100名(当日整理

券を配布)

「民俗芸能公演」

日時 3月27日(日)

午後1時30分〜3時

内容 一宮市の無形文化財に指定

されている「民俗芸能」の

公演。

定員 100名

三岸節子記念美術館

〒632892

冬のワークショップ

「そんなことしちゃダメでしょ!」

日時 1月22日(土) 午後2時〜4時

講師 加藤マンヤ氏(美術家)

内容 普段の生活ではダメ!って

言われることやしかられそ

うなことを色々な素材を使

って、みんなで楽しみます。

対象 小学3〜6年生

定員 24名

参加料 100円

申込み 「往復はがき」か「FAX」

に、必要事項を記入の上、

1月15日(土)までに美術館へ。

※申込多数の場合は抽選。

常設展「三岸節子 晩年の輝き」

日時 2月1日(火)〜4月3日(日)

午前9時〜午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、以下同し)

内容 三岸節子は、63歳で南フ

ランスへ移住して風景画に新

境地を開き、84歳で帰国し

た後も大作を手がけました。

本展では、晩年になっても

精力的に制作し続けた画家

の姿をご紹介します。

観覧料 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

市内小中生・65歳以上無料。

企画展現代作家シリーズ

「濱田樹里展〜生命の奔流〜」

日時 2月5日(土)〜27日(日)

午前9時〜午後5時

内容 熱帯の花々を思わせる鮮や

かな色彩の大作を手がけ、

若手の日本画家として活躍

する濱田樹里による濃密な

絵画空間をお楽しみ下さい。

観覧料 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

市内小中生・65歳以上無料。

※常設展観覧料含む。

「濱田樹里展」関連事業

ギャラリートーク

日時 2月11日(金)・祝

午後2時〜3時30分

内容 作家によるギャラリートー

クを開催します。作品や制

作についてお話をしていた

だきます。

※要企画展観覧券・申込不要。

日本画ワークショップ

日時 2月13日(日)

午前10時～午後4時

講師 ● 濱田樹里氏

対象 ● 中学生以上

定員 ● 16名

参加料 ● 3,000円 (材料費)

申込み ● 「往復はがき」か「FAX」

に、必要事項を記入の上、
2月1日(火)までに美術館へ。

※申込多数の場合は抽選。

美術館講座「美術の学校4」

日時 ● ①2月20日(日)②2月27日(日)

③3月5日(土)

各回午後2時～3時30分

内容 ● ①「現代アートと自然」

山脇一夫氏 (金城学院大学
教授)

②「絵描きのなり方ー江戸
時代の場合ー」

安田篤生氏 (愛知教育大学
准教授)

③「山下清の実像 障書と美術」
三頭谷鷹史氏 (名古屋造形
大学教授)

会場 ● 美術館1階講義室

定員 ● 100名

受講料 ● 無料

申込み ● 往復ハガキに必要事項を

記入の上、2月11日(金)まで
に美術館へ。

※申込多数の場合は抽選。

美術館美技講座

日時 ● 3月中(全5回)

午後1時～3時

講師 ● 西村正幸氏 (名古屋美術大
学教授)

内容 ● 版画の実技講座。

会場 ● 美術館2階実習展示室

定員 ● 16名程度

※要受講料・要申込み。(詳しくは
お問い合わせ下さい。)

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

特別展「起宿のくらし」

日時 ● 2月5日(土)～3月20日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、
月曜休館、以下同じ)

内容 ● 所蔵する村の文書から起宿
の町並みや出来事や人々の
くらしがわかります。今回
は、古文書を中心に、当時
の人々の日常生活を紹介。

観覧料 ● 無料

「懐かしのSOUNDレコードコンサート」

日時 ● 3月21日(月)・祝

午後1時30分～3時30分

内容 ● SPレコードの名曲を蓄音
機で鑑賞します。

入場料 ● 無料

玉堂記念木曾川図書館

☎(84)2346

一宮市立図書館講演会

「この町と、僕の演劇について」

日時 ● 12月16日(木)

午後2時～

講師 ● 柴 幸男氏

※一宮市木曾川町の出身で
2010年「わが星」にて
第54回岸田國士戯曲賞受賞
の新锐劇作家・演出家。

会場 ● 玉堂記念木曾川図書館
視聴覚室

定員 ● 先着80名

入場料 ● 無料

青年の家

☎(73)2400

「ヤングフェスティバル」

日時 ● 3月13日(日)

午前10時～午後3時

内容 ● 青年グループ活動による発
表、展示、交流など市民と
のふれあいを目的に開催。

一宮市民会館

☎(71)2021

「米良美一 with セントラル愛知
交響楽団スプリング・コンサート」

日時 ● 3月27日(日) 午後2時～

開場は30分前

入場料 ● 4,000円

※全席指定・税込み。未就学児入
場不可。

一宮市尾西市民会館

☎(62)8222

「村治佳織&古川展生 デュオ・
リサイタル」

日時 ● 1月16日(日) 午後2時～

開場は30分前

入場料 ● 前売4,000円

当日4,500円

※全席指定・税込み。未就学児入
場不可。

「海援隊 トーク&ライブ 2011」

日時 ● 3月5日(土) 午後3時～

開場は30分前

入場料 ● 前売4,500円

当日5,000円

※全席指定・税込み。未就学児入
場不可。

市経済振興課

☎(28)9130

「新春トップ講演会」

「これでいいのかが政治と経済」

日時 1月29日(土)

午後1時30分～3時

講師 岩見隆夫(政治評論家)

会場 一宮市民会館ホール

入場料 無料(要整理券)

※整理券は1月4日(火)より一宮庁舎東玄関受付、経済振興課、尾西庁舎西館1階受付、木曾川庁舎総務管理課、各出張所、一宮市民会館で配布。

「加入団体の催し」欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前月1日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項 ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先 〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局 (住所不要)
またはFAX 0586-86-1809



「狂俳月例会」

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(45)6702

日時 1月8日(土)・2月12日(土)・3月12日(土) 午後1時～

会場 葉栗公民館

内容 各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。(初心者歓迎)

参加料 無料

「市民短歌教室」

【問合せ先 真清短歌会以下同じ】

☎(62)4654

日時 1月9日(日)・2月13日(日)・3月13日(日) 午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 真清短歌会委員により実作指導します。(初心者歓迎)

「新年短歌会」

日時 1月23日(日) 午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 なたでも(大会に先立ち詠歌を提出)

参加料 500円

申込み 当日直接会場

「市民俳句教室」

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)5504

日時 1月23日(日)・2月27日(日)・3月27日(日) 午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。(初心者歓迎)

参加料 無料

「市民川柳教室」

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(45)8045

日時 12月26日(日)・1月23日(日)・2月27日(日)・3月27日(日) 午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

「平成22年度支部講演会」

【問合せ先 (社)中部日本書道協会一宮支部】

☎(73)3513

日時 1月30日(日) 午後4時～

会場 一宮スポーツ文化センター

講師 長谷川 公茂先生

演題 「円空の生涯」

参加料 無料(一般聴講歓迎)

「創立16周年記念日本報道写真連盟 第16回真清支部展」

【問合せ先 一宮写真協会・日本報道写真連盟】

☎(61)0814

日時 3月16日(水)・21日(月)

午前10時～午後6時(21日は午後4時まで)

会場 ギャラリーるぼ

内容 写真の展覧会

入場料 無料



愛知県文化協会連合会の催し（報告）

愛知県民茶会

（尾張部）



11月7日(日)、稲沢市民会館において、県民茶会が行われました。

愛知県文化協会連合会、稲沢市文化団体連合会のご尽力により、六つの市町文化協会の皆様が趣向を凝らした設席をされ、当日は約3,800人と大変多くの参加者がありました。設席された六つの市町の文化協会の皆様にとっては大変忙しい一日であったと思います。



一宮市芸術文化協会からも代表として、一宮茶道連盟の皆様が設席をされました。一宮市の茶席は常に客足が絶えることはなく、活況を呈しております。

愛知県文連

西尾張部芸能大会



12月5日(日)、岩倉市総合体育文化センターにおいて、西尾張地区12市町村の各文化協会の代表が一堂に会して県文連西尾張部芸能大会が行われました。

どの出演団体も普段の練習の成果を思う存分発揮しようと大変気合が入っていました。一団体が発表を終える度に、会場からは盛大な拍手が送られていました。



一宮市芸術文化協会からも代表として扇寿々々の皆様が出演し、舞踊を披露いたしました。練習を重ね、素晴らしい発表をされた扇寿々々の皆様には、会場から惜しめない拍手が送られていました。

お詫びとお知らせ

10月16日(土)に「いちのみや文芸2010」第39集を発行しました。随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、川柳、狂俳の7部門合わせて351名の方から寄せられた2680作品を掲載し、1冊800円で一宮市役所木曾川庁舎（一宮市教育委員会生涯学習課内）で販売しております。

なお、ここで、印刷に一部誤りがありましたのでお詫びして、左記のとおり訂正させていただきます。

※76ページ 下段 1行目
 正 かんおほひ事定まるの
 誤 かんおほ 事定まるの

※124ページ 下段 10行目
 正 大先生涙しまさむ先生の
 一生善くぞと涙しまさむ
 誤 → 大先生涙しまさむ先生の
 一生善きぞと涙しまさむ

『異文化としての日本』

10月16日(土)、一宮市尾西市民会館にて、文化講演会が開催されました。週刊誌等でご活躍中の作家椎名誠さんをお招きし、「文化講演会〜異文化としての日本〜」と題してご講演いただきました。

【講演内容抜粋】

世界的に見えていて、実は我々が気付いていないだけの日本独自の文化、つまりは異文化というものが日本にいてもわかることがあります。

僕の知り合いのアメリカインディアンの女性が日本のお墓参りを見て、素朴な疑問を言っていました。「日本人は何でお墓に生えている草をむしり取って



しまうのですか。そのお墓から故人の魂が草に乗り移って生えてきたかもしれない草をむしり取ってしまっているのですか。

そして生きている花を切って、わざわざ死んでしまった花をお墓にお供えするのですか。」と言うのですね。彼女の疑問に僕は答えられませんでした。「そういう仕来りなりなのです。」としか思いつかなかったですね。

これが異文化なのです。もちろんどちらが良いというわけではありません。

もう一つ、日本にいとあまりが付きますが、日本は非常にたくさんのお水が出る珍しい国であるということなんです。飲むとお腹をこわしてしまう硬水と違い、どこを掘っても軟水という名水が出てきます。日本の軟水は世界では、ブルーゴールドなんて呼ばれています。今、東北とか北海道で中国系やヨーロッパ系の会社が、林業が廃れてしまった山をどんどん買って

います。山の地下水が目的で山を買っているのですね。日本の地下水をどんどん吸い上げて商品にして、このままでは確実に枯渇してしまいます。でも日本のマスコミでは何も取り上げていません。普段何気なく使っている水も世界から見れば、どれほど大切な水であるか、多くの日本人は気付いていません。

他にも身近なところで、私の家族でのことになるのですが、去年、サンフランシスコに住んでいる息子夫婦が一旦、日本に帰国しました。その時、孫が怖くてトイレに入れないと言っています。その理由を聞いてみると、トイレのドアを開けると勝手に電気が点くことや、換気扇が回っている音などが怖いということです。多くの日本人は勘違いしています。実は日本だけなのです。よ、トイレの温水洗浄便座がこんなに普及しているのは。欧米では痔を患っている患者がいる病院に設置されているぐらいです。だから、孫は生まれて初めて日本の複雑なトイレに出会い、使えなかっただけではなく怖いと思ったのですよ。

トイレを例に挙げましたが、日本のハイテク多機能は世界に類が無いのですよ。他の国は何でもシンプルで、日本みたいに何でも近代化するのには、世界中でも珍しいケースですね。そのため経済界では、今の日本はガラパゴス現象が起きていると言われています。南米のエクアドルから900キロ西にあるガラパゴス諸島では、外敵が入ってこないため、外からの異文化が入ってきませんでした。その結果、その島独自の特異な進化をってしまったのです。日本も今まさに同じような特異な変化をしているのだと言われていますね。

異文化と異文化が出会い、お互いに刺激しあうことによってその国の文化が発展するという図式は、ずっと昔から何気なく行われてきました。ただ日本は一時、鎖国によって異文化との出会いを拒み、異文化を理解しない時期がありましたよね。この善し悪しはわかりませんが、多くの異文化に触れていると、物の考え方が変わってくることは確かです。

【題 字】 武 山 翠 屋
【編集・発行】 一宮市芸術文化協会

【連絡先】 一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809